大阪警察病院の指定による相乗効果について

資料５

○甲状腺がんに関しては国際臨床試験に積極的に登録し高い評価を得ており、他の病院にない強みがある。

*例　RIFTOS試験　26例（世界第1位）、　2位ペンシルベニア大学　9例、　VERIFY試験　国内1位、世界3位*

○指定により、都道府県がん診療連携拠点病院を中心とした大阪市がん2次医療圏の患者集中を和らげ、早期診断・治療が可能となる。その結果、大阪府のがん死亡率の改善を図ることができる。また、オンコロジーエマージェンシーに対して夜間・休日の診療体制（ER・救命センター）を確立している当院の強みを生かし、大阪市がん2次医療圏の終末期患者の救急対応が緩和できる。

・年間新入院がん患者数は4490人。そのうち1101人（25％）緊急入院。

・当直体制　内科・外科・救命科・脳外科・循環器センター　医師13名　麻酔科：常勤16名

・都道府県がん診療拠点病院から26年度実績で116名が紹介受診。

・診療所や中小病院だけでなく、都道府県がん診療連携拠点病院から26年度116名の紹介。

・クリニカルパス適応率：入院新患者におけるクリニカルパス適応率　70.6％

・緊急入院1101名の内、156名に緩和ケアチームが介入。

○指定により、今後の方針

キャンサーボードに紹介医の参加を推奨し、がん情報を共有化した上で、切れ目なく質の高い緩和ケアを含めた在宅医療・介護サービスを受けられる体制を実現できると同時に地域全体のがん診療レベル向上に寄与できる。

○指定により、当院のクリニカルパスチームが中心になり取り組めば地域連携パスの充実をはかることが出来る。

　・警察病院　がんクリニカルパス：197種類